

『花を訪ねて： 緑のコキア』

国営ひたち海浜公園散策報告（令和1年8月29日）

“事の発端”は、昨年暮れにJR東日本のパンフレット：『とれたびより』に載せられていた「国営ひたち海浜公園」の真紅の「コキア」の写真であった。それでネットで調べてみると、8月末の今の時期は「コキア」はまだ緑色だが、丘一面に植えられているのを見るとなかなか見事である。

「ウェザーニュース」を見て8月29日（木）に決めて、21日にビスターリの皆様にご案内を差し上げた。早速池田さんから参加のご連絡をいただいたが、天候が安定しないので、日にちを変更すべきかなどもたもたしているうちに、池田さんは予定が入ってしまい、参加できなくなってしまった。結局、松山さんと出掛けることになった。

上野発9:00「ひたち5号」で勝田駅10:20着に着き、バス停で松山さんと合流。10:40発で11時に「ひたち海浜公園西口」に到着。平日なので降りる人は数名だった。上を見ると青空が広がっている。入口入ったところで、園内の案内パンフレットを見ていたら、ご両親に連れられた小学低学年の男の子が「クイズラリーをやるんだ！」と喜んで走って行った。ここは南北に分けられ、南側は観覧車などもある主として遊園地の様相だ、一方北側は噴水池を持った野外劇場や、種々の花々の広場・丘、林になっている。“機関車トーマス”のような頭部の「シーサイドトレイン」が走っていた。

眼目の「みはらしの丘」は園の最東端にあり、約1kmの向うになる。丘の手前にヒマワリ畑があり、その向こうにコキアの丘が広がっていた。黄色のヒマワリと緑色のコキア、青空のコントラストが素晴らしい。一方左手には薫ぶきの古民家2棟が建っていて、その手前には赤、黄、紫、白、ピンク色など多色の「ジニア」（和名：百日草、こちらの名前の方が一般的、キク科）の畑がある。

九十九折れの道をゆるやかに登って、「みはらしの丘」の上に登る。その頂上は“海拔：58mでひたちなか市の最高点”と書いてあったが、ほんとうだろうか。来ている人はあまり多くはなく、中国・韓国の人の方が多い位だった。圧倒的に若いカップルが多い。「コキア」は直径30~40cmもあり、立派だ。丘一面のコキアの群落は見事。今の時期、“夜のコキア”を楽しむために、丸型や大形スクリーン状の照明器具が多数配置されていた。また夜には臨時バスも走ると。

1時間ほど堪能した後、麓の古民家まわりの木陰に置かれたベンチ・テーブルで休憩・昼食を摂った。春の「ネモフィラ」もコキアの終わった後のこの丘一帯に植えられるという。正に二毛作だ。南半分の遊園地側はパスして、引き上げることにした。約2時間の観光ではあったが、十分に堪能したのである。13時のバスで勝田駅に戻り、13時47分発の「ときわ76号」で東京に戻った。

「緑色のコキア」の畑もなかなか見応えがありよかった。「ヒマワリ」、「百日草」の3点セットで、とても得した気分。今度、10月中旬頃に「真紅のコキア」を見に来ようと思う。こうなると病みつきで「ネモフィラ」も見に来ることになるかな。

以上 陽田

